



良い牧者であるイエズス

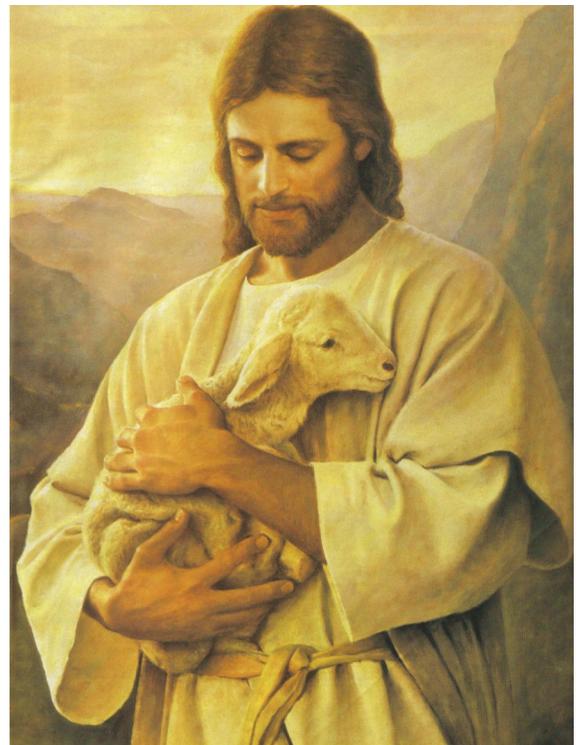
2014年 5月

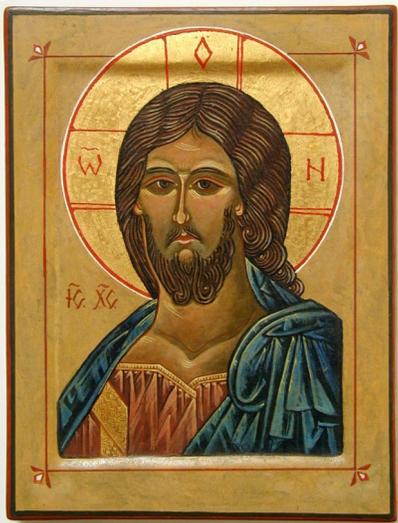


復活の主日からすでに2週間が過ぎました。イエスとのつながりは私たちの生涯を通じて、維持され、成長させていかなければなりません。

超自然的なものと自然なものの間には関係があります。

生まれたその時から子供は、アイデンティティに対する意識、つまり自分が誰であるかという感覚を発達させていきます。家族とのつながりや、ほかの大人や子供、友達、そして共同体の人々とのつながりは、アイデンティティの確立に大きな役割を果たします。子供が持つ自分は何者かという感覚は、その子供の性格や振る舞い、そして自分自身への理解や家族、他人への理解によって形作られていきます。どこかに属しているということは、あるグループとの安心できる関係、あるいはつながりがあるということです。子供が家族や仲間や共同体の中で、自分がその一員であるとか、安心していられるような感覚が持てれば、子供は情緒的に強くなることも、自分に自信を持つこともできて、物事に挑戦することや、困難に立ち向かうことができます。





今日の福音書で、イエスはご自身を良い羊飼いにたとえておられます。

聖書の中にいろいろな人物像を見いだすことができますが、黙示録はそれらを通して、私たちが属する教会の奥深い神秘を物語っています。新約聖書ではこれらすべての人物像の中に、新しく中心となる存在を据えましたが、

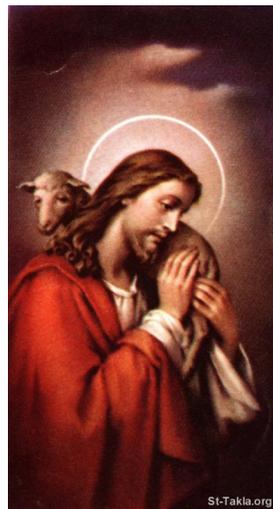
それは、そういう人物たちがキリストの体であり、キリストがその長となられたからです。この中心のまわりに、羊を飼う人たちや土地を耕す人たち、建築に携わる人たちの営みがあり、家族や結婚生活を送る人たちが存在するのです。

私たちは洗礼を授かり、教会に属することでキリストの霊に出会うことができます。そして神は教会に救いのためのあらゆる方法を示しました。その方法とは、信仰の告白、秘跡、教会統治、そして目に見える形としてのキリストの教会に集う信徒の交わりです。そして教会の牧者としてただキリストの権威にあずかる教皇や枢機卿を通して、キリストは教会を治めるのです。

キリストの羊の群である教会において、イエスはただ一人の羊飼いです。今日の書簡で、私たちの罪をご自分の身に受け、受難によって私たちをいやされたイエスが示されています。またイエスは言われました。「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。」ここでは、羊である私たちと私たちの羊飼いであるイエスの間には、親子の関係だけでなく愛による関係があることが表されており、さらには、子であるイエスと父である神との間に存在するのと同様の、命の交わりによる関係も表されています。

今日私たちは、天の后として冠をいただいた聖母マリアを特別にたたえます。

神によって選ばれて、マリアはイエスの地上での母であり、イエスの救いの働きにおいて心の広い協力者でもあります。マリアは神の恵みによる私たちの母なのです。キリストと教会の救いの神秘において、マリアの存在は実に重要な役割を果たします。そのためにマリアは、神の子に対してやさしい母だけでなく、無類の気高さを備えた救い主の助け手となりました。マリアは信仰の長い旅路を進みます。そして十字架の足元へと続くこの旅路において、救い主がその使命を全うすることができるよう、マリアはその行動と献身によって母としての協力を惜しみませんでした。救い主である息子の仕事に協力する道すがら、マリアの母としての務めは一つの変化を遂げることとなります。自然を超える命を私たちの魂に取り戻すために、キリ



ストと一つとなることで、さらに燃えるような慈愛に染まることとなったのです。マリアは信仰の旅路をただ進むだけではなく、困難に屈することなく誠実にやり通したのです。人としての息子であるイエス・キリストとその言葉に、もともと無条件に自身を捧げてきたマリアは、当初から母としての犠牲を教会に注がずにはおられませんでしたが。世を救うがための息子の死によって、マリアの母としての取り次ぎは、そのすべての子どもたちのために取り成すことで、普遍的な意味を持つこととなりました。

イエスと一つになったマリアの取り決ぎを通して、神の国に向かって地上を旅する教会が聖人たちと一つに交わることができるよう、マリアは特異な方法で貢献しているのです。こうしてマリアは、全世界の後として主によって高められました。そして主の主であり、罪と死を征服した息子にもっと完全な形で従うこととなったのです。

キリストは命を犠牲にしてまで従順であられたので、父によって高く上げられました。こうしてキリストは栄光の王国、天の国に入られたのです。そしてマリアも共にその王国に入る恵みを受けました。天の国に受け入れられても、マリアは救いの働きを止めることはありませんでした。それは神に選ばれたすべての民が永遠に満たされるまで、母としての取り決ぎを行うことなのです。

いかに困難な時であっても、真の安心、平穩、そして内なる平安が得られるよう、マリアは唯一の道を私たちに示してくれます。それは神に全幅の信頼を置くための道なのです。

みなさん、私たち信仰の旅路に、恵みに満ちた聖母マリアがこれからも寄り添ってくださるようお願いいたしましょう。 アーメン。



ラファエル植田勝行神父の米国での住所

St. Francis de Sales Oratory

2653 Ohio Avenue

Saint Louis, Missouri 63118

王たる宣教会のホームページ<<http://icrsp-jp.org>>

Email: sfds@institute-christ-king.org